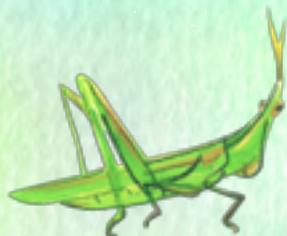




わたしはなあ〜に？

文：小川結希・水信亜衣 絵：サイトウマサミツ



よんであげるなら 4才から

じぶんでよむなら 小学校 1年生から





ある なつのひ ゆうちゃんは
おにいちゃんと いっしょに
のはらに バッタとりに きていました。
あそびつかれた ゆうちゃんは
おおきな きのしたで ウトウトと
ねむって しまいました。



とつぜん「ゆうちゃん ゆうちゃん！」と
よぶ こえが きこえて きました。
めを あけると おおきな きが
にっこり わらって たっているでは
ありませんか。
「やあやあ こんにちは！」
「うわあ きっ きが しゃべったあ!!」



「ゆうちゃん いつも あそびに きてくれて
ありがとう。きょうは ゆうちゃんに
プレゼントが あるよ!」
「えっ! プレゼント!?!」
「そうだよ いちにちだけ ゆうちゃんを
すきな いきものに へんしん させてあげよう!」
「えっ? へんしん? たのしそう! なにに なるの?」
おおきな きは えだを ザワザワ ゆらして いいました。
「さあ なにに なるかは おたのしみ!」
おおきな きは ゆうちゃんに まほうを かけました。

ゆうちゃんの からだは みるみる うちに
ちいさくなって しまいました。
「ここ どこ!? あれ? おおきな くさだらけ~!」
「わたし いったい なにに へんしん しちゃったの?
おにいちゃ~ん!!!」





ゆうちゃんが おにいちゃんを さがしていると
くさの かげから クモが あらわれました。

「だれだい？」

ゆうちゃんよりも はるかに おおきな クモです。

ゆうちゃんは おそる おそる たずねました。

「おおきな クモさん おしえて わたしは なぁに？」

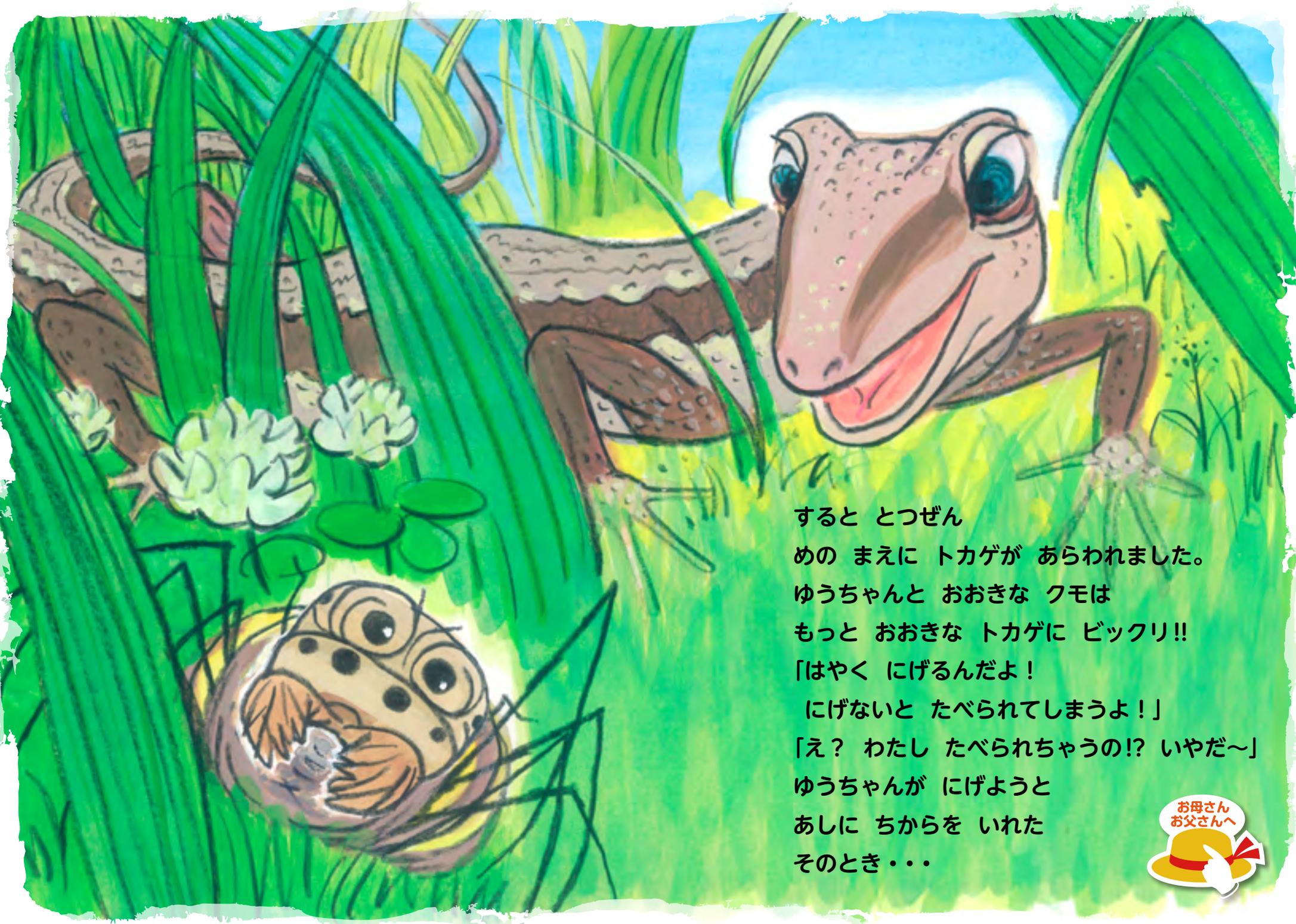
「あんたは ワタシよりも あしが にほん すくないねえ。

いとも だせない ようだし。

おなか いっぱいじゃなければ

あんたを たべたいんだがねえ」と

おおきな クモは にっこり わらって いいました。



すると とつぜん
めの まえに トカゲが あられました。
ゆうちゃんと おおきな クモは
もっと おおきな トカゲに ビックリ!!
「はやく にげるんだよ！
にげないと たべられてしまうよ！」
「え？ わたし たべられちゃうの!? いやだ～」
ゆうちゃんが にげようと
あしに ちからを 入れた
そのとき・・・





ゆうちゃんのからだは トカゲを とびこえ
そらに むかって ういていました。

「わあ～ わたし とんでる～！ ひよえ～」

「あっ！ ちょうちょさ～ん！

わたしは もしかして ちょうちょ？」

「いいえ あなたは はねは あるけど

わたしのよう に ヒラヒラと

とんで いられないわ」

「な～んだ ちょうちょ じゃ ないのかあ・・・」

そういいながら ゆうちゃんは

はっぱの うえに おりました。



すると とりが とんできて
「あらっ こんなところに おいしそうなお餌がいたわ！」
とりは とつぜん ゆうちゃんを くちばしで つつこうと しました。
「えっ! こんどは とりに たべられちゃうの!?
たすけて~!」
ゆうちゃんは むちゅうで ちかくの あなに とびこみました。
とりは あなを のぞきこんで
「ああ しっばい! こどもたちが おなかを すかしているわ。
ほかのお餌を いそいで さがさなきゃ!!」 といひ
とんで いました。





ゆうちゃんは ホーっと ひといき ついて
あなの なかを みまわしました。
あなの なかは くらく まえと うしろに
いっぽんの みちが ありました。
そこへ まえの みちから モグラが あらわれました。
「おや ぼくの いえに なんのようだい？」
「こんにちは モグラさん わたしは なぁに？
つちの なかの いきもの？」
「いやいや よく みえないけれど
きみは つちの いきもの じゃないよ クンクン・・・
おや？ きみは くさの においが するね」





ゆうちゃんは かんがえました。
「あしが ろっぽんで ジャンプが とくいで、
くさのにおい・・・ う～ん
わたしは なにに へんしん したんだろう？」
すると あなの そとから うたう ような
こえが きこえて きました。
「ジャンプ！ ジャンプ！
くさが だいすき！ ぼくらの ジャンプは
さいこうさっ！」
「えっ？ ジャンプ？ くさが すき？
もしかして・・・」
ゆうちゃんは おもいきって
あなのそとにむかって ジャンプ しました。

あなの そとに いたのは きれいな きみどりいろの バッタたち。

「おや？ あなから なかまが でてきたぞ！ きみ どうしたんだい？」

「えっ!? わたしは バッタなの!？」

「なあ～に 知っているんだい！ きみは どうみても バッタだよ。」

そうって バッタたちが クスクス わらいました。

「そうか わたしは バッタだったんだ。

なかまが いたんだあ！」





きらきらとした おひさまの した。
あおあおとした くさむら。
ゆうちゃんは なかまたちと
たくさん わらって ときどき ケンカして
とても とても しあわせでした。
バッタの くらしが
こんなに ステキで たのしいなんて。





そこへ とつぜん おおきな にんげんの てが
にゆ~っと あらわれました
「わあ にんげんだぞお！」「みんな にげろー!!!」
バッタたちは いっせいに にげだしました。
でも ゆうちゃんは びっくりして
うごく ことが できません
とうとう おおきな てに つかまって しまいました。

ゆうちゃんは ちいさな ムシカゴの なかに
いれられて しまいました。

「え～ん！ こわいよ～！ 出して～！
みんなの ところにもどりたいよお」
こわくて ころぼそくて
ゆうちゃんは なきだしました。





「ゆうちゃん！ おきて！ どうしたの？」
めをあけると おにいちゃんが いました。
「あれっ？ おにいちゃん・・・？」
あれっ？ あれれ？
わたしは バッタ じゃないの？」
おにいちゃんは きょとんとして いました。
「なにいつているの？」
ゆうちゃんは ぼくの いもうと だよ。
「バッタとりに きたのに ねちゃったんだよ」
「えっ!? バッタとリ？」
ゆうちゃんは あわてて とびおきました。

そして めの まえの ちいさな ムシカゴに
バッタの なかまたちが つかまっているのを 見つけました。
「たいへん！」 ゆうちゃんは あわてて ムシカゴの ふたをあけて
バッタをにがしました。
「せまかったよね こわかったよね ゴメンね」
それを みていた おにいちゃんは ビックリ。
「なんで きゅうに そんなこというの？
せっかく つかまえたのに〜」





ゆうちゃんは こんどは
えがおに なって いいました。
「だって わたし バッタなんだもん！」
そういつて そらに むかって
げんきよく ジャンプ しました。
じめんから ちょっとしか
はなれて いなかったけれど、
ゆうちゃんは とっても
うれしい きもちに なりました。



きょう ゆうちゃんが であった むしや とりたち。
みんな ちがう おおきさだし ちがう エサを たべて
ちがう かたちの すに すんでいる。
にんげん よりも ちっちゃくて きづかないことも あるね。
でも みんな おんなじ いきている。
いっしょうけんめい いきている。

この絵本を作った人

作 _____

小川 結希（おがわ ゆうき）

東京都福生市に生まれ、幼少期は自然の中を駆け巡る日々を過ごす。大学時代に、研修会で熊のような伝説のインタープリターに出会い、インタープリターになることを決める。大学卒業後、その伝説のインタープリターに熱意を伝えたことで株式会社自然教育研究センターに入社させてもらい、自然公園で念願のインタープリターとして活動するようになる。現在は都内の環境学習施設でも活動し、日々嬉しく楽しいインタープリター人生を堪能中。絵本は子どもの頃から大好きで、しょっちゅう本屋さんに行っては、「チェック→惚れる→つつい買い」を繰り返すほどである。

水信 亜衣（みずしな あい）

岡山県久米郡美咲町(旧柵原町)生まれ。人と自然が一体となった同町での暮らしに、自然と共に生きることの大切さを教わる。結婚を機に東京に居を移し、現在、社団法人日本ネイチャーゲーム協会*に勤務。ふるさとが教えてくれたことを次世代の子どもたちに楽しく受け継いでいくことを生涯のミッションとしつつ、自然体験学習の企画立案、講師活動も行っている。2年前から旧柵原町を舞台に、生きものと地域のつながりを、体験を通じて知ってもらう活動「aichans」を始動させている。
*社団法人日本ネイチャーゲーム協会は、平成25年4月1日より、公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会へ、名称が変更になります。

絵 _____

サイトウマサミツ

多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。

フリーのイラストレーター。千葉県の太平洋に面したのどかな町に生まれ育つ。絵本の仕事に『はっぱはらっぱらはっぱ』『はだしになっちゃえ』共に福音館書店“ちいさなかがくのとも”等。『はだしに・・・』の英語版『Beach Feet』はアメリカで出版され、好評を得ている。

企画委員（50音順）

臼井 あゆみ（株式会社ジオングラフィック）
小川 結希（株式会社自然教育研究センター）
京極 徹（公益社団法人日本環境教育フォーラム）
小堀 武信（公益社団法人日本環境教育フォーラム）
高松 敬委子（公益社団法人日本環境教育フォーラム）
水信 亜衣（社団法人日本ネイチャーゲーム協会）
森岡 寛貴（株式会社ジオングラフィック）

「わたしはなあ〜に？」は、公益社団法人日本環境教育フォーラムが事業運営、とりまとめを行い、企画委員でストーリーや作品内容を検討し、データ製作は株式会社ジオングラフィックが担当致しました。



企画・制作：公益社団法人日本環境教育フォーラム

文：小川結希・水信亜衣

絵：サイトウマサミツ

デザイン：株式会社ジオングラフィック

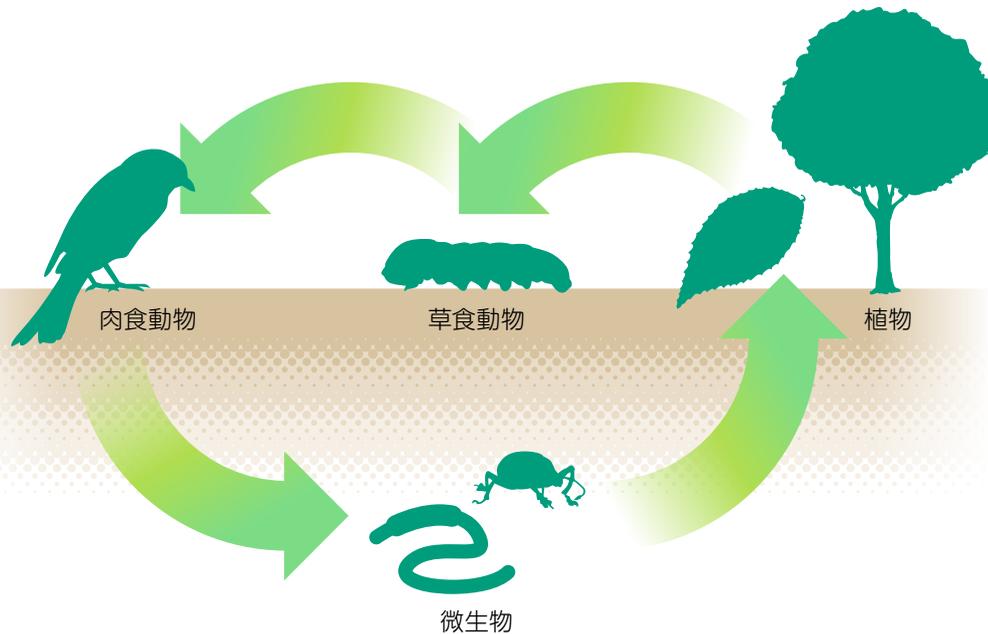
©公益社団法人日本環境教育フォーラム

※この絵本は、独立行政法人環境再生保全機構
「地球環境基金」より助成をいただいています。

最後に

生物多様性とは

自然界では、鳥は多くの昆虫を食べ、昆虫は植物の葉を食べ、植物は微生物が分解した養分を吸収します。微生物が分解したものは、落ち葉や動植物の死遺です。このように生きものは食べる・食べられる関係を通じて、お互いに支えています。



2010年に愛知県でCBD-COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）が開催されました。当時の報道で初めて「生物多様性」という言葉をお聞きになった方は、多いのではないのでしょうか。普段の暮らしと生物多様性は深い関わりがあります。

「生物多様性」とは「全ての生き物に違いがあること」であり、3つの多様性が含まれています。



1

ある場所に一まとまりの特徴的な自然があることで、東京湾の干潟や白神山地のブナ林、山岳、里地里山、湿原など、生態系（生物同士のつながり）は、地域の環境に応じて形成されています。

2

動植物からバクテリアに至るまで、いろいろな生物がいることです。現在、地球上には3,000万種もの生物があるとされています（そのうち日本は30万種とされています）。

3

同じ種であっても、遺伝子のレベルでは違いがあります。例えばアサリの貝殻の様子が違うのは遺伝子の違いです。同じ種であっても地域によって遺伝子集団が異なります。

「種」の減少と人間の活動

種は、現在わかっているだけで175万種、発見していないものを含めると3千万種だろうとされています。しかしながら1975年以降、年に4万種が絶滅していると言われています。昨今の種の減少の原因は、人間の影響です。

世界の人口は1960年には約30億人、1999年に60億人に達しました。約40年で倍に増えており、人間の活動場所の拡大によって、自然環境が減少しています。生きものが絶滅する原因の多くは、生息する環境が悪化する、乱獲、外来種の導入です。つまり人間の生活と深い関わりがあります。このまま進めば全ての生きものは絶滅してしまうでしょう。

人間が生きていくのに欠かせない、きれいな空気や水、食料、土壌、木材、繊維、医薬品。そして気候の調整、自然災害の防止、伝統的な知恵の活用。

そして自然の中に入った時の安らぎ。これらは生物多様性が保たれてこそ、人間は享受することができます。こうした恵みは「生態系サービス」と呼ばれています。

※「種の定義」は研究者の間でも合意が取れておらず、複数存在します。



環境教育と自然

環境教育の考え方の一つに「自然環境（自然と関わる文化なども含めて）への理解と関心を高め、自然環境を保全していく態度や技能、行動を育んでいくこと」があります。生物多様性を含めた、自然への関心を高めていくためには、小さい頃の自然の中での原体験が大切です。

レイチェル・カーソンは著書「センス・オブ・ワンダー」で「こどものセンス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見張る感性）をいつも新鮮に保ち続けるためには、わたしたちが住んでいる世界のよろこび、感激、神秘などを子ども達と一緒に再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が、すくなくともひとり、そばにいる必要があります」と書いています。こどものセンス・オブ・ワンダーを大切にするために、自然環境の残す、あるいは復元していく。そして大人がこどもの自然体験と一緒に関わっていくことが大切でしょう。自然環境の中で、子どもと一緒に感動を分かち合う経験は、大人にとっても感性の成長につながるものなのです。

開発が進み、資源について関心が高くなっている現代ですが、人間と自然の関係について、考え直す時期に差し掛かっているのではないのでしょうか。

今後の予定

今後2年間に渡り、「生物多様性と私達の暮らし」をテーマに絵本を作成する予定です。本作「わたしはなあ～に？」は「生物はみんな同じく生きている」です。2年目は「人間は自然の恵みで生かされている」、3年目は「生物多様性に君も楽しく取り組む事ができる」です。生物多様性に対して、徐々に深いテーマを取り上げてまいります。絵本を通して、普段の暮らしを振り返ることができたらと考えております。



編集責任

2013年3月

公益社団法人日本環境教育フォーラム 小堀 武信

参考・引用

- ・生物多様性国家戦略2012-2020 ～豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ～
- ・こども環境白書2011 <http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h22/index.html>
- ・日経エコロジー編(2009), 世界に乗り遅れないための生物多様性読本、日経BP社
- ・京極徹(2010), みんなで考えよう!生物多様性と地球環境1 私たちの生活と生物多様性、岩崎書店
- ・レイチェル・カーソン(著)・上遠恵子(訳)(1996), センス・オブ・ワンダー、新潮社
- ・星元紀、松本忠夫、二河成男(2008), 初歩からの生物学、財団法人放送大学教育振興会
- ・松本忠夫(2012), 生物圏の科学-生物集団と地球環境-, 財団法人放送大学教育振興会
- ・江崎保男(2007), 生態系ってなに?-生きものたちの意外な連鎖-, 中央公論新社
- ・小学館の図鑑NEO動物(2002), 小学館
- ・小学館の図鑑NEO昆虫(2002), 小学館
- ・小学館の図鑑NEO鳥(2002), 小学館
- ・ふしぎがいっぱい!いのちの図鑑, PHP研究所
- ・GEMS教師用ガイド 木のおうち(2009), ジャパンGEMSセンター(編集)



お母さん・お父さんへ

食べる・食べられるの関係

クモは、ゆうちゃんを食べようとしたのですが、今度はトカゲに食べられそうになりました。そのトカゲもまた、別の動物にねらわれてしまうでしょう。動物は何かを食べないと生きていけません。命がけでエサをとって食べています。あるいは何かのエサになってしまうこともあり、常に食べる・食べられるの関係です。そうした関係があることで、自然のバランスは保たれています。

※ここでいう動物とは、昆虫や鳥や哺乳動物など、すべての動く生きものを指しています。

もどる

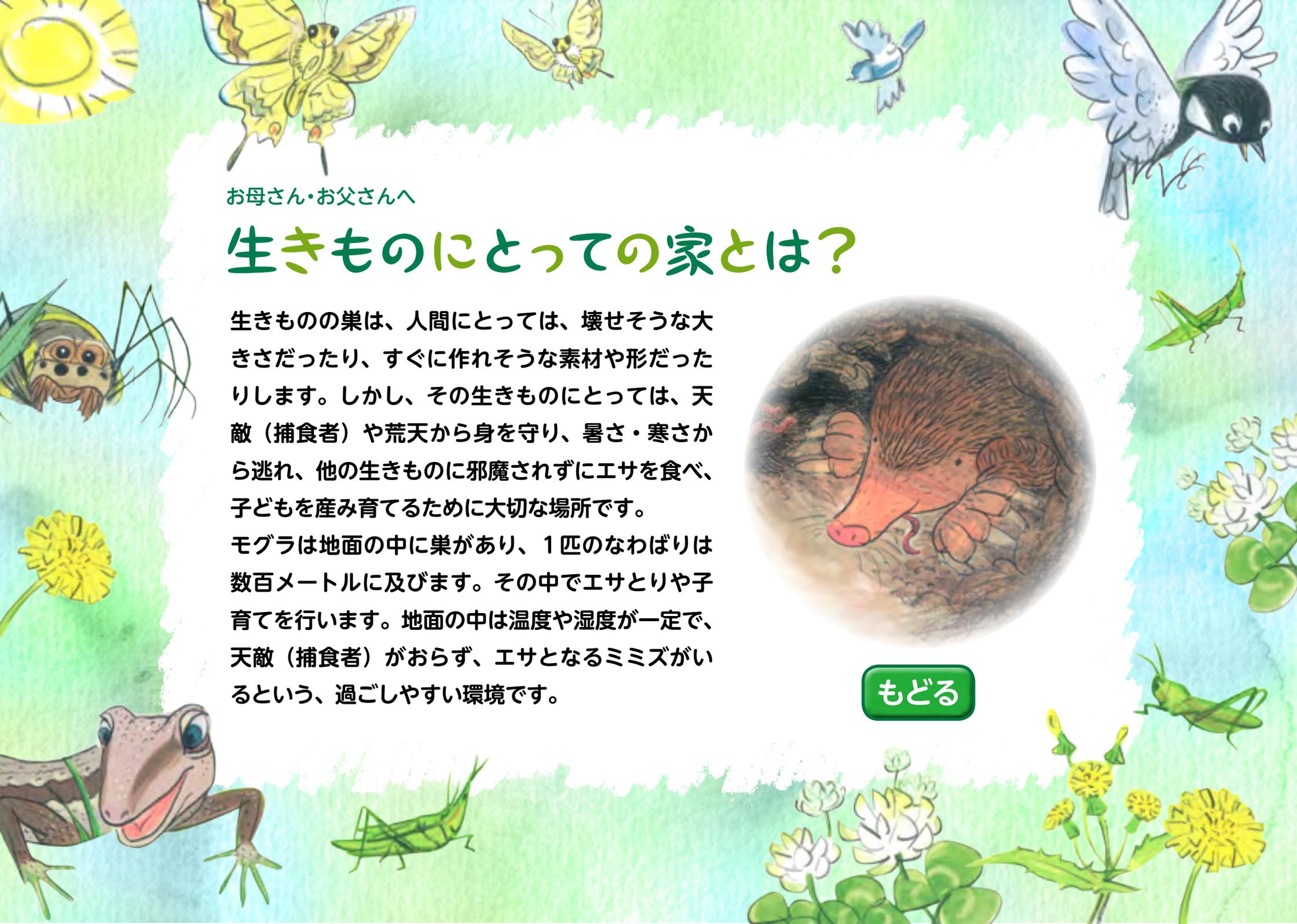


お母さん・お父さんへ

鳥（シジュウカラ）について

シジュウカラは10個くらいの卵を産み育てます。親鳥は雛が巣立ちするまでの間、雛へたくさんのエサを運びます。エサはイモムシなどの昆虫が多く、自分達もエサを食べますから、親鳥は大忙しです。たくさんの昆虫が育つ自然環境がなければ、シジュウカラは生きていけません。

もどる



お母さん・お父さんへ

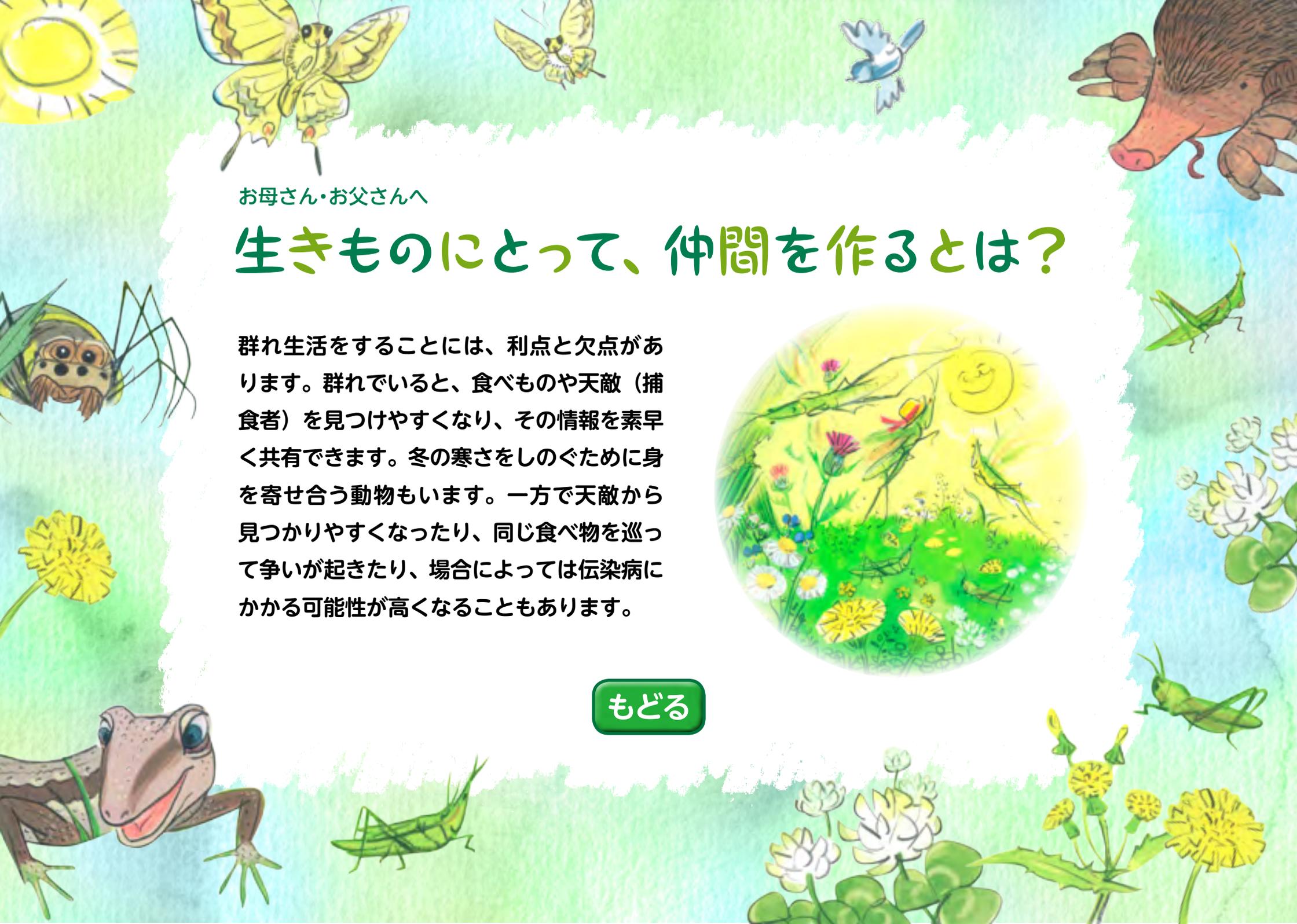
生きものにとっての家とは？

生きものの巣は、人間にとっては、壊せそうな大きさだったり、すぐに作れそうな素材や形だったりします。しかし、その生きものにとっては、天敵（捕食者）や荒天から身を守り、暑さ・寒さから逃れ、他の生きものに邪魔されずにエサを食べ、子どもを産み育てるために大切な場所です。

モグラは地面の中に巣があり、1匹のなわばりは数百メートルに及びます。その中でエサとりや子育てを行います。地面の中は温度や湿度が一定で、天敵（捕食者）がおらず、エサとなるミミズがいるという、過ごしやすい環境です。



もどる



お母さん・お父さんへ

生きものにとって、仲間を作るとは？

群れ生活をするには、利点と欠点があります。群れでいると、食べものや天敵（捕食者）を見つけやすくなり、その情報を素早く共有できます。冬の寒さをしのぐために身を寄せ合う動物もいます。一方で天敵から見つかりやすくなったり、同じ食べ物を巡って争いが起きたり、場合によっては伝染病にかかる可能性が高くなることもあります。

もどる



お母さん・お父さんへ

虫かごで昆虫を飼うことについて

昆虫を観察すると、自然の中で暮らすために必要な体の特徴を備えていることに気づくでしょう。しかし、昆虫にも人間と同じように快適な暮らしの条件があります。そこで飼育する際は、かごの広さ、いっぺんに飼える昆虫の数、温度や暗さ、エサの種類やあげる量などを、きちんと考えてあげる必要があります。

きちんと考え、最後まで飼育をしましょう。もし飼育が出来なくなったのなら、捕まえた場所で放してあげましょう。

※飼ってはいけない昆虫もいるので、注意しましょう。



もどる